

地域通貨による

まちづくりの可能性

みなさんは「地域通貨」という言葉を聞いたことがありますか？ 最近、地域の活性化やコミュニティの再生に役立つとして、各地でさまざまな地域通貨が発行されているのです。

今回は、「地域通貨」によるまちづくりについて考えてみたいと思います。

◎地域通貨とは

「地域通貨」は、簡単にいうと、日本円や米ドル、ユーロといった「法定通貨」とは違うお金です。

地域通貨は、特定された地域内、あるいは「コミュニティ」の中だけで使え、法定通貨では表現することができない社会的価値や、「コミュニティ」独自の価値を交換・流通させることを目的としています。

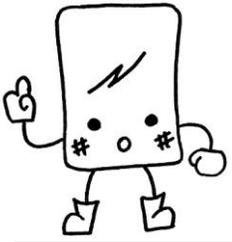
◎地域通貨のメリット

「地域通貨」と「法定通貨」の違いを見ていながら、地域通貨のメリットを考えてみましょう。

(1) 地域通貨は市民の手で作ることができる。

法定通貨は、私たちが勝手に作ることはできませんが、地域通貨なら自分たちが必要だと思ったときに作ることが出来ます。

今のお金（法定通貨）のシステムでは、お金持ちほどトクをするシステムになっています。そして、どこにお金が集まらなくても、これがいった産業がない



地方ではお金がなかなか回らなくなります。しかし、地域で通用するお金（地域通貨）を回すことで、地域経済をある程度国の経済から自立させることができるといわれています。

(2) 地域通貨は限られた範囲でしか使えない。

これは一見デメリットのように見えますが、誰かが地域通貨を使っても、それはその地域に残り、再びその地域で使われることになり、地域にとってはメリットになります。

(3) 地域通貨は使っても利子がつかない。

普通私たちがお金を借りたら、利子をつけて返さないといけません。しかし、地域通貨には利子がつきませんので、事業者にとっては大きなメリットになります。

(4) 法定通貨では貧富の差の拡大が起きているが、地域通貨ではそのようなことがない。

今の経済では、お金を持つという方が貧乏側、持っていない方が借る側になり、そこに利子が発生することにより、自然と貧富の差が拡大してきます。しかし、地域通貨では利子がつきませんので、そのようなことは起こりません。

(5) 地域に購買力を根付かせることができ、地域の活性化に役立つ。

これが地域通貨の大きなメリットの一つです。限定された地域だけで通用する通貨であれば、この通貨を手に入れた人は、当然その地域で通貨を使おうとします。通貨を地域外に流出させることなく、地域内で回すことにより、地域の活性化につながります。

また、地域通貨には次のようなメリットもあります。

(6) 市民の能力が社会でうまく活用される。

今の経済ではうまく活用されていない能力というものがあります。例えば、経験豊富な老人の知恵や、パソコンを使える若い人の知識など。地域通貨を使うと、これらがうまく活用されていきます。

(7) 新たな人間関係が生まれる。

地域通貨をさまざまな人が使うことで、主婦と老人、高校生と店主など、普通は関係を持つことがないような人たちの間で新たな人間関係ができ、共同体を新たな形で作る事ができます。

(8) 自分の知らなかった可能性を発見できる。

地域通貨によってさまざまな取引が行われますが、その中で今まで活かされていなかった自分の能力について考え直し、それを伸ばす可能性が生まれます。見えないサービスやモノの需要や供給を地域通貨はうまく結び付けられるのです。

◎地域通貨の種類

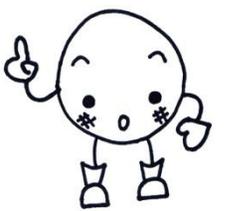
地域通貨の種類としては、大きく分けて次の4種類があります。

・紙幣発行型…お札を実際に刷って流通させるもの。

・通帳記入型…会員が通帳を持って、その通帳に残高を記入してゆくというもの。

・小切手型…小切手の裏面に持ち主が次々にサインをしてゆくというもの。

・タイムタラ型…例えば30分の仕事に對



して、決められた何かを1つ渡す、というものの。

◎地域通貨の例

これまでに、山口県内各地で取り組まれた地域通貨の一部を紹介します。

・山口市/シティー耕作シティー(NPO法人学生耕作隊) …2002年12月に電子カード式で紙券導入。その後、主婦や定年退職者の農業支援組織をつくり報酬支払いや支援会員の農産物購入に使える地域通貨を発行。

・防府市/時間通貨・ありがとう(NPO法人さわやか防府) …タイムタラ型の通帳型地域通貨。

・周南市/チエリー(桜木地域通貨研究会) …2003年10月より相互扶助に紙券型で開始。買物の割引券にも検討。

・小郡町/フシノ(榎野川流域地域通貨検討協議会) …2003年6月から2004年3月まで榎野(ふしの)川流域の地域づくりの一環として紙券型で実施。

◎地域通貨によるまちづくり

今まで各地で取り組まれた「地域通貨」の事例を見ると、地域経済の活性化という面では、その効果はまだ十分発揮されていないのが現状のように思えます。

しかし、地域のコミュニティの活性化という面では、大きな成果を上げているところも多く、若い人とお年寄りの交流を促進したり、住民の新しい能力を発見するという効果を期待して、上関町内でも地域通貨の発行を検討してみようかと思えます。

◎「わいわいタイムス」7月号は7月1日(日)発行予定です。

